

ごあいさつ



理事長
高橋 知史

皆さま方におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は当金庫に格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年度を振り返りますと地政学的リスクの高まり、欧米のインフレ・金利上昇、中国経済の減速など世界経済は不安定な情勢が続きました。

かたや国内においては、資源価格の高騰や円安を起因とする原材料価格の上昇、認証不正問題による自動車生産の停止などの影響を大きく受ける一方で、アフターコロナの反動需要やインバウンド需要の増加、半導体工場の国内誘致、株価上昇など景気回復に向けた動きもみられました。また、日本銀行のマイナス金利の解除など金融政策の変更により金融環境が新たな局面を迎えつつあります。

地元大阪では、2025年大阪・関西万博の開幕まで1年を切り、開催に伴う需要拡大と中小企業の技術や製品を世界にアピールする機会となることに期待が高まっています。

中小企業においては、長引く原材料高や人手不足、物価高による消費停滞など、事業経営を取り巻く環境は依然として厳しい状況下にあります。

このような中、令和5年度は中期経営計画「Smart Shinkin Stock 2025」のスタート年度として全役職員が一丸となり、本計画の達成に向けた諸施策に取り組みました。販路拡大支援、DX支援、事業承継やM&Aなどの幅広い課題解決施策を含めたあらゆる経営支援のほか、梅田支店階上にコワーキングスペース・シェアオフィス「Soar」を開設し、成長産業の発掘や創業支援の充実に努めました。

また、2025年大阪・関西万博の大阪ヘルスケアパビリオンへの出展事業では、世界への情報発信に向け、「未来の生活スタイル ～ スマートルーム ～」をテーマに出展者の技術開発や展示物の制作を総合的に支援しています。

あわせて、マネー・ローンダリングやサイバーセキュリティ対策の実効性向上、特殊詐欺などの金融犯罪の防止、危機管理体制の強化など内部管理体制を一層強固なものとししました。

その結果、令和5年度決算も前年に引き続き安定した業績を確保し、自己資本のさらなる充実で健全性を一層高めました。

令和6年度も「地域とともに挑戦・行動し続けよう」をキーワードに「地域密着による課題解決No.1信用金庫」をめざし、「三者共栄」の経営理念と「信頼で地域とつながる」のスローガンのもと、お客さまのニーズにしっかりと応えできる地域金融機関として、役職員一体となって使命を果たしてまいり所存です。

本誌は、大阪シティ信用金庫の経営方針や経営の現状について、ご理解を深めていただきたく作成いたしました。何とぞご高覧いただき、今後とも一層のご支援ご鞭撻を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

令和6年7月

理事長 高橋 知史